

急性心筋梗塞

について

循環器内科主任部長 佐々木 正太



循環器内科スタッフ

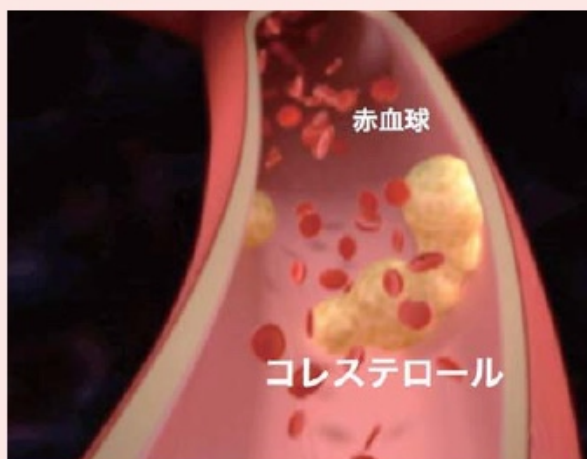
緒言

皆さんは心筋梗塞という病気をご存知ですか。そう、よくテレビで心臓発作を起こした役の俳優さんが、胸を押さえウツと呻きながら倒れる病気です。心臓の筋肉に血液を送る血管(冠動脈)が閉塞することで発症、不整脈や心不全を併発するため生命に関わります。循環器内科は、この急性心筋梗塞の治療を行う専門科です。

予防的観点

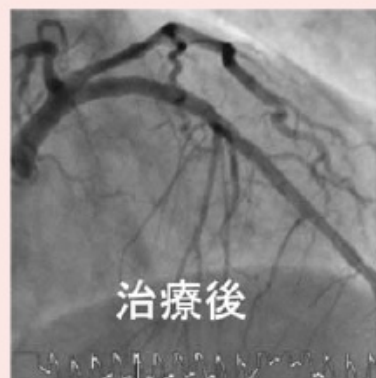
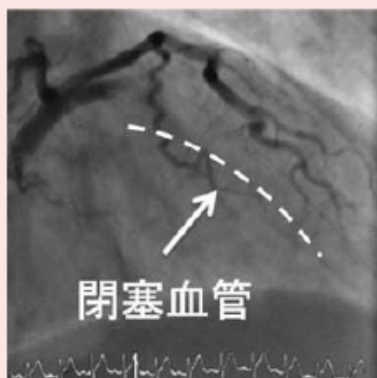
人一倍元気でご飯をおいしく食べていたひと(早飯のメタボ体型)が突然倒れる、あるいは『あのひとは朝まで元気だったのにねー』と言われて急死する場合、その7割が心臓死であることが知られています。

何故、突然血管が詰まるのでしょうか。『ヒトは血管から老いる』と言われますが、右の図に示すのは血管内に黄色いコレステロールが付着した動脈硬化イメージです。この蓄積した悪玉コレステロールの塊がはじけると、血流障害の原因となる血栓が形成され、急性心筋梗塞が発症します。血栓は短時間でできるため、半数の方には前触れがありません。上述のメタボ、高血圧、糖尿病、脂質異常、喫煙が発症に深く関与するため、指摘を受けた方は早めの予防加療が肝要です。



発症後の治療

ひとたび心筋梗塞を発症すると、今まで体験したことがないほど胸が苦しくなるため、殆どの患者さんは救急車で来院されます。深夜や早朝に入院される場合も多く、その際には循環器内科医に緊急招集連絡が入り、短時間で診療チームが集まる体制が出来ています。と同時に進行カテーテル(血管造影用の管)治療は切らずに行う手術であり、閉塞した血管をバルーンやステントで拡げることで血流を再開させます(図)。



最後に

心筋梗塞発症後の手術は、あくまで後出しじゃんけんの治療です。心臓の筋力が完全に元通りになることはありません。肝心なのは血圧、コレステロールや血糖に異常値があれば、是正とともに予防することです。動脈硬化進展因子があれば、かかりつけ医の先生と相談して生活習慣の改善に努めましょう。